

山鹿市民医療センター開放型病院広報紙

2月号

Yamaga Medical Center



発行所 山鹿市民医療センター 〒861-0593 熊本県山鹿市山鹿511番地 TEL 0968-44-2185(代) FAX 0968-44-2420

熊本県国保地域医療学会

令和6年10月26日(土)に第28回熊本県国保地域医療学会が開催され、2名が研究発表を行いました。第29回熊本県国保地域医療学会は当センター主催で本年10月25日(土)に開催予定です。

《手術室》

研究テーマは「手術室における滅菌物管理技術の向上～スタッフ教育の効果～」です。

手術室で使用する滅菌器材の有効期限延長を目指して数年前から行ってきた取り組みの中から、今回はスタッフ教育に焦点を当てて発表しました。

滅菌物の有効期限については、今回までの取り組みを元に、国保地域医療学会での研究発表に先んじて延長することが出来ています。手術による感染から患者さんを守るため、手術で使用する器材は適切に取り扱うことが求められます。有効期限を延長した現在では、以前よりさらに慎重に管理していくことが必要だと感じます。

研究発表では緊張し、上手く発表できない部分もありましたが、とても貴重な経験となりました。また、県内の地域医療を担う他施設での様々な取り組みを聞くことができ、とても有意義な時間となりました。

今回の研究発表をゴールとせず、今後も適切な滅菌物の管理体制を維持できるようにスタッフ教育を行っていきたいと思います。



発表する野口さん

(文責：野口 幸恵)

《放射線科》

「当院の造影ルート確保の取り組み」というタイトルで発表を行いました。

当センターでは、医師、看護師の業務負担を軽減し、人手不足の解消と医療の質の向上を目的として他職種へのタスク・シフト/シェアに取り組んでいます。今回の発表では、診療放射線技師が造影用ルート確保を行うことによる外来看護師とのタスクシェアを目標とし、アンケート調査による看護師の業務負担軽減度、取り組みへの満足度、業務削減時間や病院経営への貢献度を発表しました。

学会発表が初めてだったこともあり、準備の仕方、発表の仕方などわからないことが多くありましたが無事発表を終え、優秀賞を受賞することが出来ました。協力していただいた放射線科の方々と外来看護師の皆さまには感謝申し上げます。

これから更に、診療放射線技師でルート確保が出来るよう技術を磨き、病院に貢献できるよう努力していきたいと思います。



発表する井上さん

(文責：井上 疾風)

基本理念

いのち

地域住民の生命と健康への貢献

基本方針

山鹿市民医療センターは

- ① 患者さま中心の信頼される医療を行います
- ② 診療機能の充実に努め、質の高い医療を提供します
- ③ 地域の保健、医療、福祉の連携を推進します
- ④ 研修、研鑽に努め医療レベルの向上を図ります
- ⑤ 健全経営に努めます

CONTENTS

熊本県国保地域医療学会…………… P 1
 令和6年度開放型病院運営協議会総会を開催しました… P 2
 令和6年度鹿本地域緩和ケア研修会に参加しました… P 2
 医療最前線 (163) …………… P 3
 第82回公開講演会のご案内 …………… P 3
 外来担当医表 (2月) …………… P 4

令和6年度 開放型病院運営協議会総会を開催しました



12月13日(金)ゆとりろ山鹿において、令和6年度 山鹿市民医療センター開放型病院運営協議会総会を開催し、鹿本医師会を始め、山鹿市歯科医師会、山鹿地区薬剤師会の先生方、医療関係者を含め約80名の皆さまにご参加いただきました。

当日は、総会に先立ち、本年度3回目の地域医療支援病院運営委員会及び開放型病院運営協議会を開催し、医療連携に関する実績が報告されました。

総会では、別府病院事業管理者から、日頃の各医療機関のご協力により紹介・逆紹介、共同利用等の地域医療支援病院としての体制が継続できていることに対するお礼とともに、現在の当センターの状況と今後の展望について報告がありました。引き続き、開放型病院運営協議会会長である幸村克典鹿本医師会会長からは、これからも三師会と市民医療センターがワンチームで取り組んでいく必要があること等のご挨拶をいただきました。

議事では、石河院長が医療連携に係る実績報告として「紹介率及び逆紹介率」や「大型機器共同利用」など、今年度の状況を報告しました。ミニ講演会では、増田外科長が「山鹿市民医療センター外科のアピールポイント2024」と題し講演を行いました。

総会終了後、開放型運営協議会懇親会と合わせて三師会忘年会が開催され、当センターから出席した医師10名が自己紹介を行いました。ご出席いただいた地域の医療関係者の方々に対して日頃のお礼や今後のご支援とご協力をお願いし、和やかな雰囲気の中、鹿本医療圏の連携などについて意見が交わされ大変有意義な懇談の場となりました。

今後も引き続き地域医療支援病院として地域の先生方との連携を密にし、本会及び地域医療の発展に尽力してまいりますので、一層のご支援とご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。

(文責：地域医療連携室 水田 愛)



令和6年度緩和ケア研修会に参加しました

11月24日(日)当センターにおいて緩和ケアPEACE研修会が開催されました。

今回の研修会は、ファシリテーターに荒尾市立有明医療センターの佐藤伸隆先生・くまもと県北病院の赤星慎一先生をお招きし、当センターからは外科医の織田医師、緩和ケア医の堀医師、福島社会福祉士による講義がありました。

院内外からの医師・看護師に加え、作業療法士・栄養士など計12名が参加し、事前にe-learningで学習をした上で、研修会当日は座学もありましたが、シミュレーション・グループワークが中心でした。

「がん患者への告知」というシナリオ研修では、医



師・患者・観察者の役割をローテーションで担当しました。医師役では、厳しい事実を伝えることは精神的に辛いことを体験し、患者の心情に寄り添い沈黙して待つコミュニケーションの重要性・共感するスキルを学びました。患者役では、告知時のショックと苦痛・不安が押し寄せる体験をしました。がん患者一人一人が、告知という大きなイベントを乗り越えていることを痛感しました。

がんの告知は患者・医療従事者の双方にとって難しいテーマですが、我々医療従事者が患者背景を知り、患者の立場・状況・気持ちに配慮すること、患者に対しての心配り・思いやり・共感が大切だと改めて実感し参加者で共有することができました。

また、模擬患者の事例に基づき「療養場所の選択と地域連携」についてグループでディスカッションし、研修を通して「帰ることができない患者はいない」ということを学びました。「自宅に帰りたい」と希望された場合、多職種連携で早期に話し合い、力を足し合うことで様々なサポートが可能となると感じました。今回の研修での学びを今後患者ケアに活かしていきたいと思えます。

(文責：副看護師長 横手 貴子)

医療最前線 (163)



熱性けいれんについて

小児科医
小澄 将士

2024年4月から山鹿市民医療センター小児科に赴任しました小澄将士と申します。

今回は小児救急の代表疾患である、熱性けいれん（熱性発作）についてご紹介させていただこうと思います。

熱性けいれんは、主に生後6か月から60か月までの乳幼児に起こる、通常は38℃以上の発熱を伴う発作性疾患（けいれん性、非けいれん性を含む）で、髄膜炎などの中枢神経感染症、代謝異常、その他の明らかな発作の原因がみられないもので、てんかんの既往のあるものは除外されると定義されております。有病率は7～11%とされ、非常に頻度の高い疾患です。定義上は生後6か月から60か月での発症とされていますが、特に生後12から18か月での発症が典型的で、発作の発症は発熱後24時間以内が多く、48時間以上経過して発作を認めることは少ないとされています。発作型としては、強直（間代性）けいれんが典型です。

けいれんの持続時間は数十秒～10分以内のことが多いため、来院時には自然頓挫し、入眠していることも多々ありますが、けいれんが持続している場合には、呼吸・循環抑制に注意しながらミダゾラム

やジアゼパムなどのベンゾジアゼピン製剤の静注を行います。これら第一選択薬での治療で90%以上のけいれんは消失しますが、けいれんが持続している場合には第二選択薬としてホスフェニトイン静注やフェノバルビタール静注が考慮されます。また、初期対応時に静脈ライン確保が難しい場合にはミダゾラムの鼻腔・口腔投与も考慮されます。

けいれん消失後あるいは初期対応と並行して、年齢（月齢）や発熱期間、けいれんの持続時間や群発の有無、意識障害の遷延がないかを確認し、熱性けいれんとして“非典型”と判断した場合には血液検査や、必要時には髄液検査・画像検査（頭部CT/頭部MRI）を行い、代謝疾患（低血糖、電解質異常）、中枢神経疾患（急性脳炎・脳症、髄膜炎、脳出血、脳梗塞、脳腫瘍）などの評価・除外を行っていきます。また、熱性けいれん再発のリスク因子として①熱性けいれんの家族歴（両親、同胞）、②1歳未満での発症、③短時間での発熱・発作間隔（概ね1時間以内）、④発作時体温が39℃以下、が挙げられており、これらリスク因子の確認は患児の今後を見通す上で重要な情報となります。

以上、簡単ではありますが熱性けいれんについてご紹介させていただきました。意識障害が遷延しているなど熱性けいれんとしては非典型的な例はもちろん、意識障害の評価自体が難しい場合も多々あるかと思っておりますので、その際には当科までご相談いただければと思います。今後ともよろしく願いいたします。

第82回公開講演会のご案内

（日本医師会生涯教育講座 1 単位）

取得カリキュラムコード 番号・コード名
19. 身体機能の低下

下記により第82回講演会を開催いたします。
多数ご参加くださいますようご案内申し上げます。

鹿本医師会会長 幸村 克典
山鹿市病院事業管理者 別府 透
記

日時：令和7年2月14日（金）19：00～
形式：ハイブリッド方式（オンライン参加or会場参加）
会場：オンライン参加 / Zoom ミーティング
会場参加 / 山鹿市民医療センター1階医療研修センター
演題：「ロコモティブシンドロームについて」
司会：山鹿市民医療センター 副院長 工藤 智志 先生
演者：山鹿市民医療センター
整形外科 井手 淳之介 先生

参加費：無料

【参加要領】 下記参加URL、又は参加QRコードからご参加ください。

（参加URL）：<https://zoom.us/j/95228684470>

（参加QRコード）⇒

ミーティング ID：952 2868 4470

パスコード：118844

※ミーティングに参加される際の【名前】欄には、必ず「氏名」と「医療機関名」をご入力ください。

※快適にご視聴いただくため、イヤホンやヘッドセットのご使用をお勧めいたします。



お問い合わせ先 📍 山鹿市民医療センター

地域医療連携室 水田、西田

TEL:0968-44-2185 FAX:0968-44-0071

※共催：鹿本医師会

山鹿市民医療センター医療研修センター運営委員会

外来担当医表

2月

診療科名	月	火	水	木	金
呼吸器内科	※後藤 由比古	※赤池 公孝	※後藤 英介	—	※後藤 英介
腫瘍内科	—	—	—	—	※宮本 英明
消化器内科	中垣 貴志	竹野 洋司	本原 利彦	竹野 洋司 中垣 貴志	本原 利彦
内分泌・代謝内科	川崎 修二	—	川崎 修二	—	川崎 修二
循環器内科	大庭 圭介 清水 博	大庭 圭介 清水 博	清水 博 中山 智子	中山 智子 清水 博	大庭 圭介 清水 博
整形外科 (紹介外来制)	横田 秀峰 中原 達秀 井手 淳之介	工藤 智志 中原 達秀 湯本みずほ/井手淳之介	手術 (担当医)	工藤 智志 横田 秀峰 湯本みずほ	手術 (担当医)
外科	別府 透 石河 隆敏	手術 (担当医)	別府 透 石河 隆敏 増田稔郎/辛島龍一	手術 (担当医)	別府 透 石河 隆敏 増田 稔郎
乳腺外科	—	※富口 麻衣	—	—	—
泌尿器科	—	※原田 成美	—	※神波 大己 教授	—
小児科	小澄 将士	小澄 将士(午前) ※石井 真美(午後)	小澄 将士 (午後：予防接種)	小澄 将士(午前) ※石井 真美(午後)	小澄 将士
*小児科の午後は、16:00受付終了となります					
耳鼻咽喉科	—	非常勤医師	—	非常勤医師	—
眼科(予約制)	—	非常勤医師	非常勤医師	—	—
産婦人科	非常勤医師(午後) (受付14:00~16:00)	※片渕美和子(午後) (受付13:00~16:30) 婦人科・思春期・更年期	—	非常勤医師(午前) ★非常勤医師(午後) (受付14:00~16:00)	非常勤医師 (午前)
緩和ケア内科(予約制)	—	堀 和樹	—	堀 和樹	—
総合診療科	吉岡 明子	—	吉岡 明子	—	吉岡 明子
救急外来	外科医(午前) 吉岡 明子(午後)	吉岡 明子	大庭 圭介(午前) 清水 博(午後)	奇数週：担当医 偶数週：吉岡明子	外科医(午前) 消化器内科医(午後)
健診	高木 茂	高木 茂	高木 茂	高木 茂	高木 茂

◎診療受付時間は、8:30(予約再診の方は8:00)~11:00
 ◎当日の受診に関する相談を除く電話は、14時から17時が受付となります。
 ※ 非常勤医師です。 ★ 第2、第4のみ診療となります。

特殊・専門外来【予約制】

2月

名称	担当医等	実施日	診察場所
外来化学療法	担当医	毎週 火曜・水曜	各診療科
	※宮本 英明	毎週 金曜 (がん薬物療法専門医)	
禁煙外来	坂田 和子	毎週 月曜 (午後)	Aブロック
睡眠時無呼吸外来	坂田 和子	毎週 火曜・木曜 (午後)	
小児科予防接種	小澄 将士	毎週 水曜 (受付時間13:30~16:00)	
ストーマ外来	担当医	毎月 第3水曜 (午後)	Bブロック
PEG外来	担当医	毎月 第2水曜 (午後)	
セカンドオピニオン外来	各専門医が担当します。詳細はホームページをご覧ください。 予約については地域医療連携室にお尋ねください。		

◎特殊・専門外来については、各診療科にお尋ねください。
 ◎急患の場合は、この限りではありません。
 ご注意：学会等の都合で変更になる場合があります。
 ◆最新の担当表は、ホームページをご覧ください。

 **山鹿市民医療センター**
 〒861-0593 熊本県山鹿市山鹿511番地
 TEL(代表)0968-44-2185 FAX 0968-44-2420
<http://yamaga-medical-center.jp>